

産業建設常任委員会審査概要報告書

委員長 山口 泰祐

- I 開催年月日 令和 2 年 9 月 23 日（水）
II 会議時間 午後 2 時 00 分～午後 2 時 48 分
III 出席委員等 [出席委員] ◎山口 泰祐 ○薮中 一夫 角田 悠紀
石須 大雄 吉田健太郎 坂林 永喜
大井 正樹 金森 一郎 高畠 義一
(◎…委員長 ○…副委員長)
[説明員] 別紙名簿のとおり
[委員外議員] なし
[事務局職員] 西本 幸夫 松本 武司 六土 幸拓
[傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 付託議案について

- 議案第 106 号 令和 2 年度高岡市一般会計補正予算（第 4 号）のうち本委員会所管分
議案第 110 号 令和 2 年度高岡市水道事業会計補正予算（第 1 号）
議案第 115 号 高岡市防災センター条例の一部を改正する条例
議案第 116 号 高岡市福岡にぎわい交流館条例の一部を改正する条例
議案第 117 号 高岡市営駐車場条例の一部を改正する条例
議案第 118 号 高岡市営住宅条例の一部を改正する条例
議案第 119 号 高岡市特定公共賃貸住宅条例の一部を改正する条例

及び

- 議案第 120 号 工事請負契約の変更について（下伏間江福田線立体交差整備その 1 工事）

以上、議案第 106 号のうち本委員会所管分、議案第 110 号及び議案第 115 号から議案第 120 号までの計 8 件は、全会一致で、いずれも原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑は次のとおり。 〉

（以下、質疑・質問内容は ○、答弁内容は △ で表示）

【議案第 106 号のうち、市単独農業特産物開発育成事業費について】

- この事業は、市の農業特産物を産地化するための取り組みに対し支援する事業で

あり、具体的には、農業特産品の栽培や収穫時に使う農業機械の導入に対する補助を行うものと理解しているが、今回の補正の詳細は。

- △ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、外出を控えている市内外の消費者に家庭で本市の農業特産品、農産物、加工品を幅広く味わっていただくため、農業事業者がインターネット等の通信販売をした場合の送料に対し支援を行うものである。

【議案第 106 号のうち、中山間地域等農業活性化支援事業費について】

- 中山間地域の農業は大変な労力を要する。特に畦畔の草刈は大変な作業である。この事業は、中山間地域を対象に草刈り作業へ補助、助成を行うものと理解しているが、今回の補正の詳細は。
- △ 棚田地域振興法の指定を受けるため、指定棚田地域の要件を満たす傾斜地の調査を行うものである。指定を受ければ国の交付金を受けることができ、草刈などにも活用できる。

【議案第 106 号のうち、たかおかストリート整備事業費について】

- 今回の予算の補正計上に係る事業の内容は。
- △ 高岡市サイン計画に基づいて、駅周辺に設置している大拠点サインと中拠点サインに新たに開業したホテルやデパート名等を加え、内容を更新し、現在の地図に合わせるものである。
- 財源が「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」となっているが、コロナ対策との関連は。
- △ 現在、市内の駅周辺を中心に設置している案内看板表示の更新及び多言語化を図るものである。来訪者の利便性を高め、コロナ後のインバウンド消費につなげたいと考えている。

2 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔産業振興部〕

- 。令和 2 年度高岡市新分野開拓チャレンジ事業補助金及び高岡市シフト「新しい生活様式」支援補助金の採択事業者等について

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔都市創造部〕

(1)高岡市除雪管理システムの概要について

(2)除雪オペレーター育成支援事業について

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

3 閉会中の継続審査について

本委員会の所管事項について、閉会中も継続して調査する必要があるため、会議規則第 104 条の規定により、委員長から議長に継続審査を申し出ることとした。

4 その他

。 次回の常任委員会の開催について

10 月 15 日（木）午後 1 時に開催することが報告された。

〈 委員から、次の質疑等があった。 〉

【高岡地域地場産業センターのリニューアルオープンについて】

○ 10 月 3 日の高岡地域地場産業センターのリニューアルオープンが近づく一方で、コロナの感染拡大が心配されており、しっかりとしたコロナ対策が必要となるが、移転オープン当日の人出予想とコロナ対策の検討状況は。

△ 高岡地域地場産業センターの御旅屋セリオへの移転オープンにあたり、単にセンターのオープニングイベントではなく、例えば、万葉まつりに合わせ、万葉衣装でのまち歩き、また、農産物品などのマルシェ、商店街とともに実施する抽選会、御旅屋セリオのレストランテナントと連携したサービス、万葉線で会場にお越しの方への万葉線株式会社による復路の乗車券の配布など、官民挙げて様々なイベントを実施し、まちなかの賑わい創出に結びつけたい。そのためにも事前の周知として、市広報紙やホームページをはじめ、SNS やメディア媒体を活用した PR に努め、できる限り多くの方々に地場産業センター、御旅屋セリオにお集まりいただくことを期待している。

リニューアルオープン当日の人出予想は立てていないが、お越しいただいた方に不安を感じさせることが無いよう、コロナ対策には十分に配慮したい。安心してご来場いただけるよう、マスク着用の飛沫防止対策やアルコール消毒を徹底するとともに、体験会などでは、非接触型の体温計による検温を実施し、マルシェなどで密にならないよう入場を整理するとともに、一定時間同じ場所に留まることにならないよう、できる限りの対策を取り、万全を期したい。

○ 3 密を避ける観点から、この週に人が集中して集まってもらうよりも、分散して来てもらう方が、賑わいに繋がっていくと考えている。様々な体験会が催されるとのことだが、オープンする週末のみのイベントで終わるのか、それとも翌週以降も体験会を催していくつもりなのか。

△ 10 月 3 日、4 日に開催される体験会は、県内他市の伝統的工芸品 6 産地の組合員をはじめ多くの方々のご協力を仰ぎ実施するものである。時間的な制約や会場の関係から、恒常的な体験会の開催は現段階では難しいと考えているが、鋳物体験、漆

器体験については、当センターの体験施設において、随時可能である。高岡地域地場産業センターが「Z I B A」として、セリオに入ることによって、セリオ全体、まちなか全体としての盛り上がりの一翼を担うことを期待している。さらには、10月には様々なイベントがまちなかで実施され、「Z I B A」単独での企画のみならず、年度内には、他産地の伝統産業などと連携した商品販売会を計画している。あらゆる年代の方々が訪れる場所になってほしいという思いがある中で、とりわけ学生や親子連れをはじめとする若者が気軽に訪れる場所であってほしいと考えている。そのためには、どのような設え、仕掛けが有効かを研究しながら、オープン以降も各スポットでタイムリーな企画を実施し、一過性のイベントにならないよう気を配っていきたい。

【消費活性化対策キャッシュレス還元事業について】

- 令和2年8月24日から31日までの期間に行われたプレキャンペーンに参加した店舗数と配布されたギフトカードの総数は。
- △ 参加店舗が1,662店舗、一枚100円相当のギフトカードは9万枚を発行し、各店舗に配布した。
- 事業終了時期を9月末として、2億円の予算を補正計上しているが、事業終了時期よりも早期に予算額に到達してしまった場合、事業終了は前倒しするのか。
- △ 当初設定した期間の途中で終了することで、店舗、利用者双方の混乱を招くことも考慮されることから、還元額の推移に関わらず、当初設定した9月末まではキャンペーンを実施する。

【観光対策について】

- ケーブルテレビでは、雨晴海岸へのたくさんの来訪者がいる様子が映っていたのだが、秋の大型連休期間において、本市の主な観光地における観光入込数はどうだったのか。また、現地の様子はどうだったのか。
- △ 9月19日から22日の4連休中の市内の主な観光地の入込数は、瑞龍寺では3,675人、御車山会館では515人、万葉歴史館では281人、道の駅雨晴では1,455人であった。特に、雨晴海岸や瑞龍寺については、県外ナンバーの車両が非常に多かったと捉えている。シニア層を中心に、夫婦連れ、親子連れが目立ち、道の駅雨晴では、カップル、少人数での旅行者の姿も見られた。また、山町筋や金屋町、伏木の勝興寺においても来訪者が見られ、これらの状況から、少しずつ市内への観光客の来訪の動きがみえてきたと思っている。
- 市内の主な観光地でのコロナ対策の実施状況は。
- △ 瑞龍寺、御車山会館、万葉歴史館、道の駅雨晴の各施設では、アルコール消毒液の配置や来訪者の方々にマスク着用や手洗い消毒の徹底を呼び掛けるポスターやチラシの掲示など、来訪者に注意喚起をお願いしている。また、従事する案内スタッフもマスクの着用やお客様と距離をとった説明・案内を徹底しながら、業務に当たっている。さらに、密とならないよう、各施設内においては、周りとの距離をとるため、足元に目印を付けたり、御車山会館2階のシアターでは、座席間をしっか

り離すなどしている。また、御車山会館、万葉歴史館、美術館では、非接触型の体温計を導入するなど、来訪者に協力依頼の案内もしているところである。

- 「高岡に泊まろう！宿泊応援キャンペーン」について、現在までの利用状況は今定例会一般質問でも取り上げられていたが、実際に取り組んでいる市内宿泊事業者はどのような反応か。

- △ 県や他市が高額の宿泊プランに助成する制度を設けている中、本市においては、1人1万円未満の宿泊プランに1,000円を補助する制度を実施しており、市内宿泊事業者等からは「ありがたい」といったご意見をいただいている。本事業がきっかけで本市に興味を持ったお客様もいると聞いている。徐々にではあるがこのキャンペーンが浸透してきている感触を持っており、引き続き宿泊施設の方へのヒヤリング等をしながら状況を把握し、誘客施策にしっかり反映していきたい。

【河川の浚渫について】

- 9月初めに局地的なゲリラ豪雨があった際、近所の川が増水して怖いという声のある地域の方からいただいたところである。その地域からは、河川の対策を求める要望書が提出されているのだが、残念ながら令和2年度の予定カ所には入れてもらえなかったと聞いている。本市の河川の浚渫について、地域からの要望には、どのように対応しているのか。また、すぐには対応できなくても、実施予定時期の周知など、地元への丁寧な説明が必要と考えるが、見解は。

- △ 本市が管理する河川では、地元自治会からの浚渫の要望を受けた際には、速やかに現地を調査し、浚渫が必要であると判断した場合には、浚渫を実施している。また、浚渫の必要が無ければ、経過観察としている。経過観察とした場合においても、その旨を地元自治会に伝えており、浚渫が必要となった場合には、実施予定時期を地元自治会に伝え、浚渫を実施している。

- 浚渫が実施されない場合の経過観察として、地元自治会にその旨を伝えているということだが、そこからさらに、地元の住民の方にも伝えてもらえるよう地元自治会長に伝えるなどの工夫を検討していただきたい。（要望）

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

産業建設常任委員会 当局説明員（１８名）

産業振興部長	福 田 直 之	都市創造部長	堀 英 人
産業振興部次長	柳 原 隆	都市創造部次長	根 上 幹 雄
産業企画課長	新 保 貴 之	都市創造部次長 参事	竹 内 悟
商業雇用課長	表 野 勝 之	花と緑の課長	有 栖 友 広
観光交流課長	長 井 剛 志	道路整備課長	山 森 久 史
農業水産課長	須 田 稔 彦	土木維持課長	広 田 利 和
福岡総合行政センター所長	柴 田 文 夫	上下水道事業管理者	黒 木 克 昌
福岡総合行政センター次長 地域振興課長	末 坂 進	上下水道局次長	嘉 信 和 昭
産業建設課長	堂 田 康 弘	総務課長	亀 岡 勝 彦